情報モラル指導者養成講座

「子どもたちのインターネット利用を考える」

～ワークショップ形式で行う校内研修

（運営マニュアル）～

- 受講者用テキスト -

愛 知 県 総 合 教 育 センター

情報モラル校内研修について

校内研修には教科・科目の指導方法等について各教科単位で実施するもの、生徒指導やＩＣＴの活用に関するものなど全教員を対象として実施するもの、分掌または少人数で実施するものなどがあります。研修の形態も、講義形式や協議形式、実習形式など、テーマによってその実施形態も異なります。

ここでは、全教員を対象とする情報モラルに関するワークショップ形式の校内研修の運営方法について学びます。研修に参加した全ての先生方が発言をし、互いの考え方や知識を伝え合うことで共通理解を図り、学校全体が共通理解をもって情報モラル教育に取り組む体制を作ります。

なお、この校内研修は「９０分」を基本とします。各学校の実情に合わせて実施ができるように「６０分」の研修手順も紹介しますが、参加者が十分に意見交流をし、最後に研修を振り返ってまとめるためにも９０分の時間設定が推奨されます。

ワークショップ形式の校内研修

90分で行う情報モラル校内研修（マニュアル）

目的：生徒のケータイ・スマホ等によるインターネット利用の現状を知るとともに、指導の在り方について全ての先生方が考え、全ての先生方が発言することで共通理解を深め、学校全体で情報モラル教育に取り組む体制の強化を図ります。

方法：ワークショップ形式のグループ協議により、全ての先生方が発言する機会をつくります。

事前準備：

○「事例資料」の検討・作成、印刷
　最新の事象、子どもの成長に応じた表現
　内容の異なる４種類以上の事例を利用
○グループ編成
　１グループ５～６名、多様な年齢構成
○「研修用プレゼン」の確認
○「研修配付資料」の確認、印刷
○道具（ツール）の用意

場所：

○グループ協議のできる教室、会議室等

注）グループの全員が模造紙に手が届く、机の配置及び人数にすることが大切です。

研修当日に必要となる道具（ツール）：

○「事例資料」　１グループ１種類、人数分
○「研修配付資料」　参加者数　＿＿＿冊
○模造紙　１グループ１枚　＿＿＿枚
○付箋紙（５cm×７．５cm 以上）一人２色
　（赤色　５枚×＿＿人　合計＿＿＿枚、
　黄色 10 枚×＿＿人　合計＿＿＿枚）
○筆記用具　マジック等　数色　グループ数
　各自サインペン
　またはＨＢ以上の濃さの鉛筆
○新聞紙（90 分のみ）１グループ１枚　＿＿＿枚
○ストップウォッチ
○「研修用プレゼン」データ
○パソコン・プロジェクタ、スクリーン

ステップ 0（事前・当日の準備）

＜事前準備＞

○　ワークショップで話題提供する「事例資料」を検討・作成します。

　子どもたちを巻き込んだインターネット利用に伴う事件やトラブルなど、最近の話題を中心に１～２分で読める程度の事例を作成します。被害、加害、健康、人間関係、学習への影響など、４種類以上のテーマの事例を作成します。それぞれのグループが異なる事例について考えます。ただし、多数のグループがある場合は事例が重複しても構いません。

○　グループ編成をします。

　さまざまな考え方や意見、知識の交流ができるように多様な年齢構成でグループをつくります。机上に広げた模造紙に、付箋紙を貼りながら話し合うため、模造紙に手が届き、付箋紙に書いた文字が見える座席配置を考慮し、また全員が発言できるように１グループ５～６人程度の編成を検討します。

○　筆記具や模造紙、付箋紙などを用意します。

○　「事例資料」及び「配付資料」を印刷します。

　「事例資料」は、１グループに一つの事例を人数分配付します。

　「配付資料」は、最新の情報を適宜取り入れて、改訂したものを配付します。

＜当日の準備＞

○　会場を設営します。

　机上に置いた模造紙を囲んでグループ協議ができるように机を配置します。全員の手と視線が模造紙に届くように机の配置を工夫します。

座席配置例

○　各グループに模造紙、付箋紙、筆記具、新聞紙（90 分のみ）を配付します。

○　「事例資料」及び「配付資料」を配付します。

○　パソコンとプロジェクタ、スクリーンをセットします。

○　「研修用プレゼン」の起動を確認します。

ステップ 1（基本情報の提供）・・・7分

　研修の目的と進め方を伝えてから、「研修用プレゼン」を用いて子どもたちが利用しているインターネットのサービスについて簡単な情報提供をします。

(1) 研修の目的と進め方を伝える（2 分）

研修の目的

　本日の研修は、子どもたちの情報モラルを向上させるために、何が問題なのか、またどのような取組が必要なのかを皆さんで考え、共通理解を図ることが目的です。共通理解を図ることで、「学校全体での、子どもたちの情報モラル向上のための取組」を更に推進したいと思います。

研修の進め方

１　この研修は、付箋と模造紙を用いてワークショップ形式で話し合いながら、共通理解を図ります。

２　ワークショップでは、インターネットの利用に伴う子どもたちのトラブル事例の資料を読んだ後、問題点や、子どもたちのあるべき姿、必要な支援、指導についてグループで話し合い、「子どもたちの情報モラル向上のための取組」として模造紙に構想図を描きます。

３　最後に、完成した構想図についてポスターセッションをして、考えを共有します。

(2) ワークショップを行うために知っておきたい知識の提供（5分）

事例資料を検討するうえで、事例の内容を理解するために知っておきたい知識を簡単に説明します。ふだんインターネットをあまり利用していない先生方が、事例の内容についてイメージできる程度の情報を短時間で提供する必要があります。ここでは「研修用プレゼン」を用いて、説明をします。トレンドや目の前の生徒の状況を反映して独自に作成した資料を配付し、説明することも効果的です。

ワークショップを行う前に、子どもたちのインターネット利用の現状に関する資料をご覧いただきます。・・・・・・（説　　明）・・・・・・。

ステップ 2（アイスブレイク）・・・5分（90分研修のみ）

ワークショップを始める前に、簡単なゲームを行いグループの一体感を醸し出すことで、参加者相互の職務上の関係や経験年数等による遠慮などから生じる緊張を取り除き、自由に発言できる雰囲気づくりをします。

リーダーを決める

初めに、各グループのリーダーを決めます。
全員起立して、グループ内で誕生日（月日）を発表し、誕生日順に右前から並び直してください。
（参加者の動きを見ながら、並び終えたところで）
真ん中の誕生日の人（偶数の場合は前の人）がリーダーです。

一体感をつくる

1　皆さん少し、緊張している様子ですから、簡単なゲームでアイスブレイクをしましょう。
2　リーダーは、机上の新聞紙を丸めてボール状にしてください。
（準備ができたところで）
3　ゲームの説明をします。
初めにリーダーが、誰でもよいのでメンバーの一人の名前を「〇〇さん」と呼んで、ボールをパスします。
ボールを受け取った人は、「はい、**〇〇リーダー**」とリーダーの名前を言って、ボールをリーダーにパスします。
同じようにパスを続けて、リーダーと、全てのメンバーとのパスが終わったグループは、着席します。
早く着席できたグループが、今日一番チームワークのよいグループでしょう。
4　では、リーダーさん用意はいいですか。
（用意ができたことを確認して）**始め！**
5　（全てのグループが終了したのを確認して、１位、２位を発表します。最後のグループにも配慮した声掛けをします。）
6　さて、場の雰囲気が和んだところでワークショップを始めましょう。

ステップ 3（導入）・・・18分

ここでは、子どもたちのインターネット利用に伴うトラブルの事例を基に、問題点について話し合います。

問題提起

では、机上に配付した「事例資料」を２分間で読んでください。・・・・・**時間計測２分**

問題の洗い出し

1　今読んでいただいた事例について、「こうなったのは、これが問題だ」と思うことや、事例の中で単に「ここが問題だ」「ここがおかしい」と思うことなどを、リーダーの指示で、一人一つ順番に発表してください。
2　発表した人は、自分の意見を赤い付箋に**簡潔に、大きく**書いて模造紙に貼ってください。付箋の貼り方や貼る場所に決まりはありません。
3　全員が発言できるように、できるだけ簡潔に発表してください。発表は２周します。できるだけ前の人と違う問題点を発表してください。
4　２周目に前の人と同じ意見になった場合は、自分の意見を少し足して発表してください。
5　注意事項ですが、全員が初めに付箋に意見を書き終わってから付箋を貼ったり、リーダーが皆さんの付箋を読んで話を進めたりすることのないようにしてください。必ず全ての先生が自分の意見を発表できるようにしてください。
6　時間は１０分程度でお願いします。
では、リーダーさん、始めてください。・・・・・**時間計測１０分（＋３分可）**

問題の把握

続いて、問題点などを書いた赤い付箋の内容で似ているものを寄せて貼り直し、赤い付箋のまとまりをつくってください。全てをまとめる必要はありません。他と内容が似ていない付箋が、一つずつになっていても構いません。
ここでも貼り方や貼る場所に決まりはありません。３分程度でお願いします。
では、始めてください。・・・・・**時間計測３分**

ステップ　4（思考の広がり）・・・10分

ここでは、赤い付箋のまとまりごとに、例えば、「子どもたちが言葉でのコミュニケーションが大切だと考えるようになってほしい」「人を傷つける書き込みをしないようになってほしい」「保護者に子どものスマホ利用について関心をもってほしい」など、「あるべき姿や行動」、「理想とする状態」を考えます。

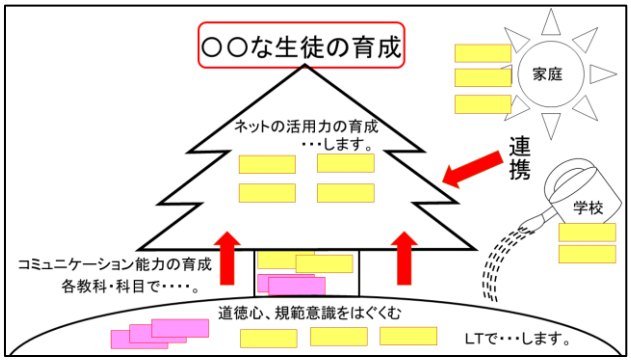
望まれる変容

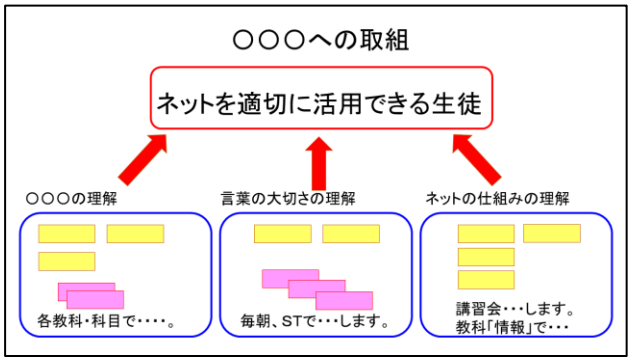
1　赤い付箋のまとまりごとに、問題となる対象（子ども、保護者、学校、企業、社会など）がどのように変わるとよいか「〇〇と考えるようになってほしい」「〇〇ができるようになってほしい」「〇〇な状況になってほしい」などを考えて、黄色い付箋に書いて赤い付箋**の近くに**貼っていってください。
2　「〇〇になってほしい」ので「〇〇の指導をする」など、**「指導」については後から考えます。**
3　なお、ここでは、一斉に黄色い付箋に意見を書いて貼ってください。赤い付箋のまとまりに対して、二つ以上の黄色い付箋を貼ることができるとよいと思います。時間は１０分です。
（指示が伝わったことを確認して）
4　では、リーダーさん、始めてください。・・・・・**時間計測８分（＋２分可）**

ステップ　5（意見の集約）・・・20分

子どもたちの情報通信機器の適切な利用、また安心・安全なインターネットの利用を図るため、子どもたちや保護者、学校、教員、地域、企業、社会などを「あるべき姿や考え方」「適切な行動」「理想とする状態」に近づける（変容させる）必要があります。
この変容を導くため、担任、教科・科目の担当、分掌や学校として、どのような取組が可能なのかを

考え、構想図（ポスター）として表現します。以下はポスターの完成イメージ例です。





実施可能な取組の検討

理想とする状態（黄色い付箋）への変容を導くための取組を考えます。

1　黄色い付箋の記述で、似ている内容ごとにまとめます。赤い付箋を利用しても構いません。
2　黄色い付箋のまとまりに共通する「あるべき姿や考え方」「適切な行動」「理想とする状態」などに導くための目標として、「タイトル」（〇〇の育成、〇〇の理解など）を考えます。
3　それぞれの「タイトル」に対して、どのような取組が考えられるか、具体的に考えます。
4　目標としての「タイトル」とそのための「取組」が決まったら、模造紙に目標と取組、そしてその成果を分かりやすく構想図としてまとめ、**「（仮題）私たちの取組ポスター」（ポスターのテーマはグループで考えます）**を制作してください。時間は１８分です。
5　では、リーダーさん、始めてください。・・・・**時間計測１８分（＋２分可）**

ステップ 6（ポスターセッション）・・15分（90分研修のみ）

各グループが制作した取組構想図のポスターを基に、それぞれのグループの考えを共有します。

ポスターセッションの準備

それでは、これから各グループが作成したポスターを使って、ポスターセッションを行います。
1　初めに、ポスター解説者２名（Ａさん、Ｂさん）を決めます。
（ポスターを掲示できない場合は、ポスターを持つ人とペアで選出。Ａチーム、Ｂチーム）
2　ポスター解説者Ａさん（Ａチーム）以外の方は、他のグループのところへ、人数が偏らないように分かれます。
3　解説者Ａさんが、完成したポスター（模造紙）について、グループでどのような話し合いが行われたか３分間で説明し、その後、質疑応答や感想を２分間で行います。ここまでが１回のセッションです。
4　次に解説者Ｂさんが自分のグループに戻り、その他の人は一つグループを移動して、２回目のセッションを行います。
5　では、ポスター解説者２名を選出してください。
6　（解説者を選出できたところで、）それでは解説者Ａさん（Ａチーム）以外の方は、他のグループへ移動して、まず初めに、そのグループの「事例資料」を読んでください。

ポスターセッションによる共有（1回目）

1　（移動、準備、事例の確認が終わったところで、）それでは解説者Ａさん、３分間で説明してください。・・・・・**時間計測３分**
2　３分経ちました。説明に対する感想や質問を出し合ってください。
　では、お願いします。・・・・・**時間計測２分**
3　時間になりました。１回目のセッションを終わります。
4　続いて２回目を行います。解説者Ｂさんはグループに戻って準備してください。その他の方は、自分のグループを飛ばして、右回りに次のグループへ移動し、「事例資料」を読んでください。

ポスターセッションによる共有（2回目）

1　（移動、準備、事例の確認が終わったところで、）それでは解説者Ｂさん、３分間で説明してください。・・・・・**時間計測３分**
2　３分経ちました。説明に対する感想や質問を出し合ってください。
　では、お願いします。・・・・・**時間計測２分**
3　時間になりました。これでポスターセッションを終わります。
4　元の席に戻ってください。

ステップ　7（共通理解）・・・10分

ポスターセッションを基に、「学校全体で実施する取組」について共通理解を図ります。

各グループ共通の取組と学校の取組

1　ポスターセッションで提案された取組について、それぞれのグループに共通する取組がありましたか。３人の方にお尋ねします。（３人を順番に指名、発言）
2　今日は、それぞれのグループで異なる事例についてワークショップを行いましたが、問題の根本と改善の取組として、「〇〇〇」「〇〇〇」「〇〇〇」などの共通する取組が報告されました。
3　子どもたちのインターネット利用については、大きく分けると「インターネットや情報通信機器に関する技術的な指導」と「道徳性や規範意識などの心の成長に関わる指導」があります。
4　今回のワークショップでも、この２点が共通の話題だったと思います。
　技術的な指導については、専門的な知識が必要となるため、全員が同じように指導することは難しいですが、心の教育については、これまで私たちが指導してきたことに、インターネットの基本的な特性である
・一瞬で情報が広がり、伝わる
・不特定多数とつながることができる
・物理的距離や時間を問わない
・書き込みや掲載画像はコピー可能、永久に残る
などを意識して指導をすることで十分に可能なことです。専門的な部分と全員で指導できる部分を役割分担して指導することが大切です。
5　今回のワークショップから、本校では、「〇〇〇〇の育成について、〇〇〇〇に取り組む」ということが、皆さんの共通理解を得られた取組と考えます。

ステップ 8（まとめ）・・・5分

校内研修のまとめ（例）

本日の研修の目的は、最初にお伝えしたように「子どもたちの情報モラルを向上させるために、何が必要なのかを皆さんで考え、共通理解を得ること」、そして「学校全体で子どもたちの情報モラル向上に取り組むという体制を強化すること」でした。

ワークショップという研修形態によって、全ての先生方に発言していただく機会を得ることができたことで、ふだん、それぞれの先生方がそれぞれの立場で指導されてきた「情報モラル」を、お互いに「どのような意識」で、また「どのような知識」をもって指導されて、また、皆さんが「同じような悩み」をもって指導されてきたことを知ることで、「学校全体で取り組むことがいかに大切であるか」ということを確認できたことが成果であり、今後の大きな一歩につながると思います。

今後は、皆さんの知識や情報を共有しながら、各自、あるいは、それぞれの分掌等において、更に具体的な指導について検討し、学校全体で実行することで、子どもたちの情報モラルの向上を図りたいと思います。

情報モラル指導資料及び教材の紹介

なお、子どもたちの指導で参考になる考え方や資料、教材については「配付資料」を参考にしてください。また、情報モラル指導について、お困りのことがありましたら、ぜひお尋ねください。

本日は、ありがとうございました。

60分で行う情報モラル校内研修（マニュアル）

目的：生徒のケータイ・スマホ等によるインターネット利用の現状を知るとともに、指導の在り方について全ての先生方が考え、全ての先生方が発言することで共通理解を深め、学校全体で情報モラル教育に取り組む体制の強化を図ります。

方法：ワークショップ形式のグループ協議により、全ての先生方が発言する機会をつくります。

事前準備：

○「事例資料」の検討・作成、印刷
　最新の事象、子どもの成長に応じた表現
　内容の異なる４種類以上の事例を利用
○グループ編成
　１グループ５～６名、多様な年齢構成
○「研修用プレゼン」の確認
○「研修配付資料」の確認、印刷
○道具（ツール）の用意

場所：

○グループ協議のできる教室、会議室等

研修当日に必要となる道具（ツール）：

○「事例資料」　１グループ１種類、人数分
○「研修配付資料」　参加者数　＿＿＿冊
○模造紙　１グループ１枚　＿＿＿枚
○付箋紙（５cm×７．５cm 以上）一人２色
　（赤色　５枚×＿＿人　合計＿＿＿枚、
　黄色 10 枚×＿＿人　合計＿＿＿枚）
○筆記用具　マジック等　数色　グループ数
　各自サインペン
　またはＨＢ以上の濃さの鉛筆
○ストップウォッチ
○「研修用プレゼン」データ

注）グループの全員が模造紙に手が届く、机の配置及び人数にすることが大切です。

ステップ　０（事前・当日の準備）

＜事前準備＞

○　ワークショップで話題提供する「事例資料」を検討・作成します。
　子どもたちを巻き込んだインターネット利用に伴う事件やトラブルなど、最近の話題を中心に１～２分で読める程度の事例を作成します。被害、加害、健康、人間関係、学習への影響など、４種類以上のテーマの事例を作成します。それぞれのグループが異なる事例について考えます。ただし、多数のグループがある場合は事例が重複しても構いません。

○　グループ編成をします。
　さまざまな考え方や意見、知識の交流ができるように多様な年齢構成でグループをつくります。机上に広げた模造紙に、付箋紙を貼りながら話し合うため、模造紙に手が届き、付箋紙に書いた文字が見える座席配置を考慮し、また全員が発言できるように１グループ５～６人程度の編成を検討します。

○　筆記具や模造紙、付箋紙などを用意します。

○　「事例資料」及び「配付資料」を印刷します。
　「事例資料」は、１グループに一つの事例を人数分配付します。
　「配付資料」は、最新の情報を適宜取り入れて、改訂したものを配付します。

＜当日の準備＞

○　会場を設営します。
　机上に置いた模造紙を囲んでグループ協議ができるように机を配置します。全員の手と視線が模造紙に届くように机の配置を工夫します。

座席配置例

○　各グループに模造紙、付箋紙、筆記具を配付します。

○　「事例資料」及び「配付資料」を配付します。

○　パソコンとプロジェクタ、スクリーンをセットします。

○　「研修用プレゼン」の起動を確認します。

ステップ 1(導入)・・・4分

(1) 研修の目的と進め方

研修の目的と進め方を伝えます。

研修の目的

本日の研修は、子どもたちの情報モラルを向上させるために、何が問題なのか、またどのような取組が必要なのかを皆さんで考え、共通理解を図ることが目的です。共通理解を図ることで、「学校全体での、子どもたちの情報モラル向上のための取組」を更に推進したいと思います。

研修の進め方

1　この研修は、付箋と模造紙を用いてワークショップ形式で話し合いながら、共通理解を図ります。
2　ワークショップでは、インターネットの利用に伴う子どもたちのトラブル事例の資料を読んだ後、問題点や、子どもたちのあるべき姿、必要な支援、指導についてグループで話し合い、「子どもたちの情報モラル向上のための取組」として模造紙に構想図を描きます。
3　最後に、完成した構想図を基に研修の振り返りをして、考えを共有します。

(2)リーダーを決める

初めに、各グループのリーダーを決めます。
全員起立して、グループ内で誕生日（月日）を発表し、誕生日順に右前から並び直してください。真ん中の誕生日の人（偶数の場合は前の人）がリーダーです。

ステップ 2(導入)・・・18分

ここでは、子どもたちのインターネット利用に伴うトラブルの事例を基に、問題点について話し合います。

問題提起

（リーダーが決まったところで）それでは、ワークショップを始めます。
では、机上に配付した「事例資料」を２分間で読んでください。・・・・・**時間計測２分**

問題の洗い出し

1　今読んでいただいた事例について、「こうなったのは、これが問題だ」と思うことや、事例の中で単に「ここが問題だ」「ここがおかしい」と思うことなどを、リーダーの指示で、一人一つ順番に発表してください。
2　発表した人は、自分の意見を赤い付箋に**簡潔に**、**大きく**書いて模造紙に貼ってください。付箋の貼り方や貼る場所に決まりはありません。
3　全員が発言できるように、できるだけ簡潔に発表してください。発表は２周します。できるだけ前の人と違う問題点を発表してください。
4　２周目に前の人と同じ意見になった場合は、自分の意見を少し足して発表してください。
5　注意事項ですが、全員が初めに付箋に意見を書き終わってから付箋を貼ったり、リーダーが皆さんの付箋を読んで話を進めたりすることのないようにしてください。必ず全ての先生が自分の意見を発表できるようにしてください。
6　時間は１０分程度でお願いします。
では、リーダーさん、始めてください。・・・・・**時間計測１０分（＋３分可）**

問題の把握

続いて、問題点などを書いた赤い付箋の内容で似ているものを寄せて貼り直し、赤い付箋のまとまりをつくってください。全てをまとめる必要はありません。他と内容が似ていない付箋が、一つずつになっていても構いません。
ここでも貼り方や貼る場所に決まりはありません。３分程度でお願いします。
では、始めてください。・・・・・**時間計測３分**

ステップ ３(思考の広がり)・・・10分

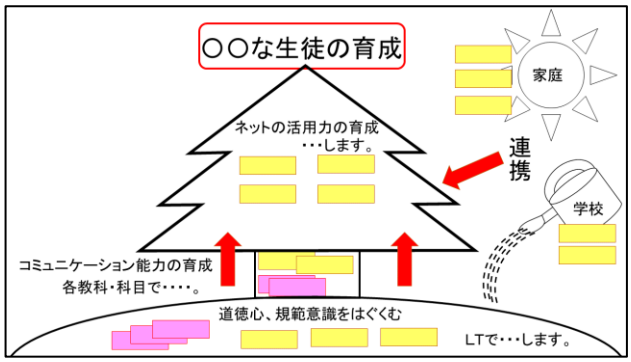
ここでは、赤い付箋のまとまりごとに、例えば、「子どもたちが言葉でのコミュニケーションが大切だと考えるようになってほしい」「人を傷つける書き込みをしないようになってほしい」「保護者に子どものスマホ利用について関心をもってほしい」など、「あるべき姿や行動」、「理想とする状態」を考えます。

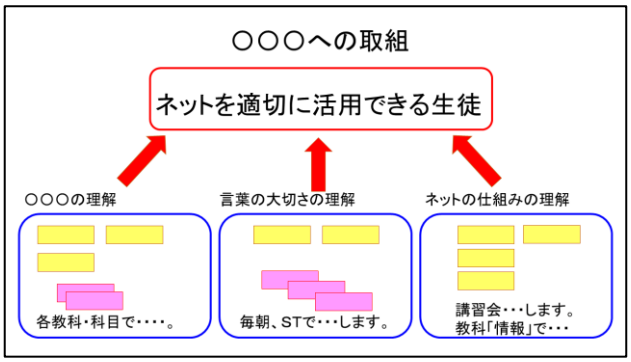
望まれる変容

1　赤い付箋のまとまりごとに、問題となる対象（子ども、保護者、学校、企業、社会など）がどのように変わるとよいか「〇〇と考えるようになってほしい」「〇〇ができるようになってほしい」「〇〇な状況になってほしい」などを考えて、黄色い付箋に書いて赤い付箋**の近くに**貼っていってください。
2　「〇〇になってほしい」ので「〇〇の指導をする」など、**「指導」については後から考えます。**
3　なお、ここでは、一斉に黄色い付箋に意見を書いて貼ってください。赤い付箋のまとまりに対して、二つ以上の黄色い付箋を貼ることができるとよいと思います。時間は１０分です。
（指示が伝わったことを確認して）
4　では、リーダーさん、始めてください。・・・・・**時間計測８分（＋２分可）**

ステップ ４(意見の集約)・・・20分

子どもたちの情報通信機器の適切な利用、また安心・安全なインターネットの利用を図るため、子どもたちや保護者、学校、教員、地域、企業、社会などを「あるべき姿や考え方」「適切な行動」「理想とする状態」に近づける（変容させる）必要があります。
この変容を導くため、担任、教科・科目の担当、分掌や学校として、どのような取組が可能なのかを考え、構想図（ポスター）として表現します。以下はポスターの完成イメージ例です。





実施可能な取組の検討

理想とする状態（黄色い付箋）への変容を導くための取組を考えます。

1　黄色い付箋の記述で、似ている内容ごとにまとめます。赤い付箋を利用しても構いません。
2　黄色い付箋のまとまりに共通する「あるべき姿や考え方」「適切な行動」「理想とする状態」などに導くための目標として、「タイトル」（〇〇の育成、〇〇の理解など）を考えます。
3　それぞれの「タイトル」に対して、どのような取組が考えられるか、具体的に考えます。
4　目標としての「タイトル」とそのための「取組」が決まったら、模造紙に目標と取組、そしてその成果を分かりやすく構想図としてまとめ、**「（仮題）私たちの取組ポスター」（ポスターのテーマはグループで考えます）**を制作してください。時間は１８分です。
5　では、リーダーさん、始めてください。・・・・**時間計測１８分（＋２分可）**

ステップ　5（まとめ）・・・5分

各グループが制作したポスターに共通する考え方や取組を指摘し、全員で共通理解を図ります。

校内研修のまとめ（例）

本日の研修の目的は、最初にお伝えしたように「子どもたちの情報モラルを向上させるために、何が必要なのかを皆さんで考え、共通理解を得ること」、そして「学校全体で子どもたちの情報モラル向上に取り組むという体制を強化すること」でした。

ワークショップという研修形態によって、全ての先生方に発言していただく機会を得ることができたことで、ふだん、それぞれの先生方がそれぞれの立場で指導されてきた「情報モラル」を、お互いに「どのような意識」で、また「どのような知識」をもって指導されて、また、皆さんが「同じような悩み」をもって指導されてきたことを知ることで、「学校全体で取り組むことがいかに大切であるか」ということを確認できたことが成果であり、今後の大きな一歩につながると思います。

今後は、皆さんの知識や情報を共有しながら、各自、あるいは、それぞれの分掌等において、更に具体的な指導について検討し、学校全体で実行することで、子どもたちの情報モラルの向上を図りたいと思います。

情報モラル指導資料及び教材の紹介

なお、子どもたちの指導で参考になる考え方や資料、教材については「配付資料」を参考にしてください。また、情報モラル指導について、お困りのことがありましたら、ぜひお尋ねください。

本日は、ありがとうございました。